

相談支援部会 報告書

会議名	第1回 相談支援部会		
開催日時	令和6年7月3日(水) 14時00分～16時00分		
開催場所	板橋区役所 北館9階 大会議室A		
出席者数	17名(欠席1名)	傍聴者数	10名

報告事項(3件)

議題名	基幹相談支援センターの令和5年度事業報告と令和6年度の取組
概要	基幹相談支援センター、地域生活支援拠点等の事業内容について、令和5年度の事業報告と令和6年度の取組を報告した。
主な意見・回答	なし

議題名	計画相談支援 出張説明会について
概要	令和4年3月から令和6年3月にかけて行われた計4回の計画相談支援出張説明会について、参加者のアンケートからどのような反応があったかなどを報告した。
主な意見・回答	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度1回目の出張説明会の説明者として磯貝部会員、北村部会員にお願いをしたい。→了承。 ・出張説明会参加者には今までサービスにつながったことがない方も多いと聞いているので、非常に良い取組だと思う。
今後の方向性	令和6年度も計画相談支援の出張説明会は続けていく。

議題名	グループワークの振り返り
概要	令和5年度第3回相談支援部会で行ったグループワーク形式の協議について報告をした。
主な意見・回答	<ul style="list-style-type: none"> ・会議体の形式よりも発言がしやすい。 ・会議だと、なかなか時間がなく、部会員で情報交換ができない部分が多いが、今回は意見交換等ができたので、できればこのようなグループワークを定期的に続けたほうが良いのではないかと感じた。 <p>→本日の会議内容についても、部会員の意見を伺う時間を予定はしているが、なかなかボリュームがあり、追いつかないような状況である。しかし、グループワーク形式の協議や会議の進行等々も含め考えていきたい。</p>
今後の方向性	グループワーク形式の協議や会議の進行等も含め考えていく。

協議事項（2件）

議題名	板橋区における相談支援事業所の支援体制・連携強化について
概要	主任相談支援専門員を活用したバックアップ体制の実現
主な意見・回答	<p>・どこまでのバックアップをしてくれるのか。電話で困難ケースの相談をして口頭での助言で終わりなのか、それとも事業所を訪問してくれたりするのか。</p> <p>→電話での対応もあり、難しいケースでは、担当者会議に参加し、そこでコメントするという形もある。うまく一緒に進められるような形で、相談に乗っていきたいというふうには考えていて、より身近で気軽に相談できる体制を目指したい。</p> <p>・バックアップ体制の周知方法や実際の連絡先の周知方法など、何かあるか</p> <p>→相談事業推進係でメールの一斉送信で周知という案を考えている。</p> <p>・基幹の障がい者福祉センターが、障がい児の指定を受けないのは、何か理由があるのか。先ほどの話でもバックアップ体制を組んでいくということだが、やはり基幹には、バックアップもしていただきたいが、引っ張って欲しいという気持ちもあり、ぜひ障がい児の方も引っ張っていただけるような体制で検討の余地があるのか、何か難しい理由があるのかというのをお聞きしたい。</p> <p>→条例等で決まっているので、すぐに変えるということとはできない。現状としては、実際に特定計画相談支援をして、そのほかに様々な役割も担っているという中で、そこに児童分野も加えるというのは難しいと感じる。</p> <p>・地域で連携をしようと言っても、今月どこが受け入れられるのかというのをもっと簡単にアクセスする方法を確立しないと、事業所すべてを活用するのは難しいと思ったが、どうなのか</p> <p>→高齢者支援の担当課で、そのような簡単にアクセスできるシステムがある。現在区としても、そのような空き状況を公表できるシステムを障がい分野としても活用できないかというような検討は以前から進めさせていただいている。また、その検討の結果については相談支援部会でも、部会を含め様々な形で周知啓発していきたいと思っている。しかし、現状まだ皆さんが見られるような空き情報システムというところが障がい分野では、整ってない。やはりそのようなシステムが必要というのは、区も認知しているため、またよご報告ができるように進めていきたい。</p>
今後の方向性	<p>・主任相談支援専門員を活用し区内の相談支援体制・連携を高めていく。</p>

議題名	相談支援・障がい児相談支援の充実について
-----	----------------------

概要	令和6年度はセルフプラン率が高い、障がい児の計画相談支援について
主な意見・ 回答	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児の計画相談について、去年では、最初セルフプランだったがやはり相談支援をつけたいという依頼がとても多かった。そのような方々は、事業所を探したが受けてくれるところがなく、急いでサービス利用を始めたかったため、セルフプランを仕方なく選んだという方が多かった。そのため、相談支援をどうしても使いたいというよりはやはり早くサービス支給決定をしてもらいたいというところから、親御さんはセルフプランを選ばれると思われる。 ・障がい児の計画相談支援は、ある程度子どもに対しての知識、経験値などが必要だと考えて、受けられない。特に未就学のお子さんだと、療育をするというところの部分も、考えなければいけないため、経験値がないと受けるのに慎重になってしまう。 ・障がい児のセルフプラン率が急増しているのは、児童発達支援事業所の急増と、放課後等デイサービスの急増が、非常に大きいかなと思う。それに対して相談の事業所数が足りない。受けられるところが足りない。 児童発達支援事業の立場からすると、やっと待機している状況から順番が回ってきて受けられる方は計画相談支援専門員が決まっていなくとも、とにかく早く療育が受けられる方が子どもの成長にとって大事だから、早く支給決定して欲しいというのが現場思いとしてある。 ・お子さんたちが、本当にセルフプランでいけるといいのかというのは、そのご家庭の状況全体を丸抱えで見たときに、家族支援の重要性ということを本当に実感するようなご家庭の場合は、はやく計画相談をつけた方がよいと思う。 一方で、児童発達一つだけ使っている状況であれば、事業所とのやりとりの中で、もしかしたら、これだけ今混んでいる状況の中で無理に計画相談支援をつけなくてもいいかなと思う。ただ、それは蓋を開けてみないとかわからないという状況がある。
今後の 方向性	事業所へのヒアリング等を通して児童のセルフプラン率の高さについて調査していく。